

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 1 報
千葉県農林水産部
令和2年5月22日

生育の進み方にばらつきがあります 茎数を確かめて、適期に中干しをしましょう

[生育概況]

3月～4月初めは気温が高く、苗の生育は進みましたが、4月中旬以降、気温が低く推移したため、移植はやや遅れました。その後、5月は気温・日照ともに高くなり、生育は平年並みに推移し、順調に分げつが始まっています。

移植後に強風・低温の影響を受けたほ場では、生育の遅れがみられます。また、一部のほ場では、藻類や還元障害の発生がみられます。

表 1 品種別の生育状況（5月20日現在）

品種	植付時期	平年比※		
		葉令の進み	草丈	茎数
ふさおとめ	4月20日	並	やや短	やや少
ふさこがね	4月20日	並	やや長	やや多
コシヒカリ	4月20日	並	並	並
	5月1日	並	並	並
粒すけ	4月20日	並	並	並

※平年比は過去10年間（2010～2019年）の平均値との比較。

ただし、粒すけは過去5年間（2015～2019年）のデータと比較。

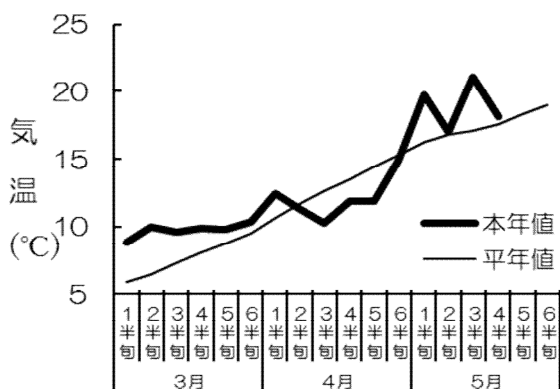


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

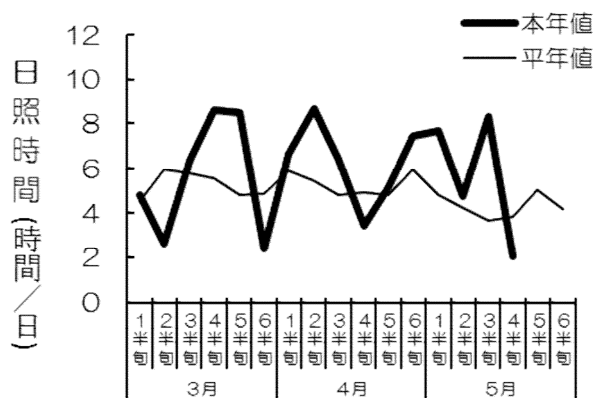


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ ほ場ごとに茎数を確認し、中干しの適期実施

今後は、茎数の増加が見込まれるため、中干し開始時期が遅れないよう注意しましょう。

中干しは、過剰分げつを避ける重要な管理です。適正な茎数確保に加え、根の活性を高めることで登熟向上や倒伏防止につながります。中干し開始の目安は、「表2」を参考にしましょう。

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)
	5月1日			
粒すけ	4月20日	460本/m ² (25本/株)	420本/m ² (23本/株)	

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安
極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある

■ 病害虫の適期防除

病害虫発生予報第2報（農林総合研究センター5月18日）によると、ヒメトビウンカの発生量は「多」、スクミリンゴガイ・イネミズゾウムシは「やや多」の予報となっています。

病害虫発生予察情報は、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課ホームページ

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/index.html>)をご覧ください。

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミリンゴガイは、九十九里沿岸部を中心に被害が発生して、植付直後の水稻苗を食害します。思わぬ集中加害を受ける場合もあり、植付後しばらくは油断禁物です。防除対策では、初期の食害を避けるため、浅水管理や薬剤防除を実施します。また、地域活動により全体の密度を減らす取組も重要になります。

■ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田でイネばか苗病が発生し放置すると、収量などに影響するほか、胞子が飛んで周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、その採種ほ場では種子としての出荷ができなくなる場合があり、優良な種子の供給に支障をきたす恐れがあります。

稲作農家の全体に係る問題ですので、本病の発生が見られましたら、出穂前までに罹病株を株ごと抜き取り、田んぼから離して埋設処理するか焼却するなど新たな感染源とならないよう防除をお願いします。

■ 還元障害（ガス沸き）が見られたら

水はけの悪いほ場や、去年の台風で稲わらが寄ってしまったほ場では、温度が上がると稲わら等が急激に分解して還元障害が発生し、分げつが抑制されることがあります。その場合には、速やかに落水して土壌中のガスを抜き、根の活力を高めます。

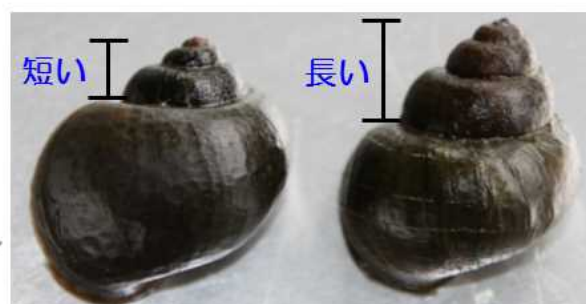
あなたの田んぼは大丈夫？

ジャンボタニシに注意！

(和名：スクミリンゴガイ)

地域みんなで防除対策に取り組み、被害を防ぎましょう！

ジャンボタニシは、在来のマルタニシと比べて、殻のらせん上部の長さが短く、丸みを帯びており、成貝は5cm程度に成長します。



生態と被害

ジャンボタニシ 在来のマルタニシ



ジャンボタニシは水田の土壌内や、水路等で越冬します。暖冬だと翌春は被害が発生しやすくなります。気温が上昇し、水田に水が張られると活動を開始し、取水によって水路からも水田に侵入します。水田内の水が深いところで活発に活動し、移植3週間後頃までの小さな苗を好んで食害します。苗がほとんど無くなる被害が発生する場合があります。

防除対策

耕種的防除や薬剤防除を組み合わせることで被害を軽減させましょう。

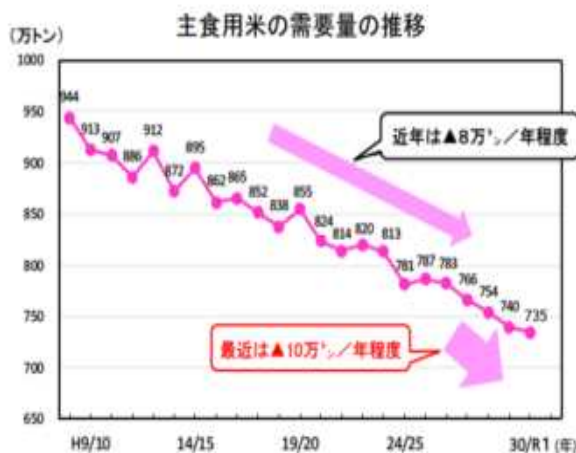
- ☑ 土壌中の越冬貝の防除（秋期の石灰窒素施用、冬期の耕うん）
- ☑ 水田、水路の貝防除（貝の捕殺や卵の払い落とし、水路の泥上げ）
- ☑ 水路からの侵入防止（取水口に目合5～10mmのネットや金網を設置）
- ☑ イネ移植後2～3週間の浅水管理（水深4cm以下）
- ☑ 水田での薬剤防除（スクミノン、スクミンベイト3、スクミハンター、キタジンP粒剤、パダン粒剤4等を散布）

* 農薬登録情報は令和2年5月現在
千葉県

まだ間に合います！

飼料用米等に取り組みましょう！

- 人口減少や食生活の変化等により、お米の需要量は年々減少しています。
- これまでと同じようにお米を生産すると、供給量が過剰となり、米価の下落を招く可能性があります。
- 需給の安定のためには、昨年まで飼料用米等を作付けしていた方々の継続した取組だけでなく、これまで取り組んでいなかった方々の新たな飼料用米等の取組が必要です。



出典：農林水産省「米をめぐる状況について」

飼料用米をおすすめする理由

- ① 行政の支援策が充実しており、安定した収入が見込めます。
- ② 主食用米の需給が改善し、米価回復が期待できます。
- ③ 飼料会社や畜産農家から需要があります。
- ④ お持ちの機械・施設をそのまま使えます。
- ⑤ 水はけの悪い湿田でも栽培できます。

詳細は、お住まいの市町村役場等へお問い合わせください。